



1

高嶺 格： Good House, Nice Body ～いい家・よい体

2010.4.29-2011.3.21

「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」第4弾となる本展のアーティスト 高嶺格は、私たちが生きていく上での根本的な拠りどころでありながら、日常の中で愚鈍になりがちな「家」と「体」についての感覚や認識を、展覧会に関わる多くの協働者とともにライブに問い直していく「Good House, Nice Body ～いい家・よい体」を提案した。

展覧会は4月末からのプロジェクト1と8月末からのプロジェクト2より構成された。前者ではボランティア・メンバーが主に役者として参加し、約1ヶ月の制作期間を経て完成した新作映像インスタレーション《Good House, Nice Body ～私を建て、そして通り過ぎていった者たち》を長期インスタレーションルームで展示した。後者では、プロジェクト・パートナーの渡辺菊真とともに「人が住む場所とは何か」とい

うテーマを掲げ、身体を使って建築を実践するワーク・イン・プログレスのプロジェクトを実施した。2つのプロジェクトは独立した内容ではあるが、ともに「家」と「体」の双方が深く絡み合うプロセスを経ている点、人間の記憶や原始的な生理的な感覚や直感と向き合う中でテーマを浮かび上がらせている点が共通項であった。

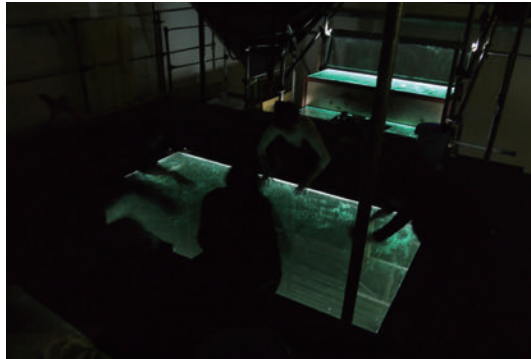
プロジェクト1で制作したインスタレーションの核となる「家」の構造体は、金沢近辺で高嶺とメンバーらが解体予定の古屋から引き取ってきた古材から構成されている。漆が丁寧に塗られた柱や梁、凝った造りの建具など、画一化された最近の住宅にはない存在感と歴史を感じさせるこれらの古材を用いて、展示室内に仮想の「家」を構築した。「家」を舞台に投影される映像と音声は、高嶺がオーディションで選んだメンバーが役者として担った。人の素肌がガラ

スに密着した部分のみが青白く発光し、浮かび上がるという特殊な撮影技法を用いて、高嶺は17分間の映像を制作した。シナリオや絵コンテを用意することなく、メンバーとの対話を重ねながら彼らの個性や身体的な特性を掴む過程で、作品の詳細が決まっていくという刺激的なプロセスがとられた。結果として、長い歴史の中で「家」の細部に刻み込まれた住民たちの無数の記憶が匂いたつような映像が完成し、「家」の床や階段部分に投影された。

プロジェクト2では、日本の現代住宅とそれを取り巻くシステムや日本人の価値観について疑問を感じていた高嶺が、国内外で土囊建築の設計施工に携わってきた建築家・渡辺菊真をパートナーに招き、真に人間的な「住処」の可能性をメンバーや他の協力者とともに追求する提案を行った。2人は当館のプロジェクト



2



3



4



5

ト工房を舞台とし、その中にドーム状の土囊の家と、鋼管足場の上に廃材等を組み合わせた2階建ての家を設計した。渡辺は、土囊ドームの意匠設計を担当し、メンバーを指揮しながら制作を進めた。高嶺は、鋼管足場と廃材の家を職人たちの手をかりながらメンバーとともに設営した。高知工科大学の渡辺の教え子たちもかけつけ、7日間の集中制作を経て、8月末に展示のコアとなる部分は完成し、一般公開が始まった。プロジェクトはその後も続き、ドームを取り囲むアーチと側壁が作られた。工房外壁に設置したドーム表面には芝生緑化が施された。11月には、タイで土囊建築を実行し、レジデンス施設を企画運営するピシットボン・シリピットを招き、高嶺とともに3日間の特別ワークショップを行った。

本展は、2つのプロジェクトのコンセプトや

意義に加え、展覧会としての展開の仕方も画期的であった。1年の会期中、高嶺が金沢にずっと張り付いていることはできない。高嶺自身のコントロールを離れたところで自律的に動き出し、変化していくことをプロジェクトの強みとして積極的に受け入れた。ある時は高嶺自身が学ぶ側として、協働者による提案や展開を受け、フィードバックとして展示に反映していった。「住むこと」「生活すること」「生きること」の根底をなす自身の身体や社会の価値観を皆で問い直しながら、オルタナティブな考え方や方法を試してみるというプロジェクトの過程には、参加者や来場者を戸惑わせながらも常にワクワクさせる空気が満ちていた。

(吉岡恵美子)

1. 高嶺格《Good House, Nice Body : 私を建て、そして通り過ぎていった者たち》2010年
撮影：中道淳／ナカサウンドパートナーズ
2. 高嶺格・渡辺菊真《Good Houseプロジェクト》2010-2011年
3. 《Good House, Nice Body : 私を建て、そして通り過ぎていった者たち》制作風景、2010年
4. 《Good Houseプロジェクト》制作風景、2010年
5. 「Good House」土囊ドームでサウナに入る、2010年11月22日
 1. Photo: NAKAMICHI Atsushi / Nacása & Partners
 2. Photo: KIOKU Keizo